

平成29年度 第4回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録（確定稿）

- 開催日時：平成29年11月14日（火）18時30分～20時30分
- 開催場所：田無総合福祉センター4階 第3会議室
- 出席委員：大高則明、小野修平、荘雄一郎、富澤佳代子、野崎信行、阿壽子、渡辺裕一
＜以上7名、敬称略、五十音順＞
- 出席職員：小平勝一、飯塚和幸、嶋田孝雄、長山清美

資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告（平成29年9～10月）
資料 2：コーディネート状況等月次報告（平成29年9～10月）
資料 3：ボランティアコーディネート実績（平成29年9～10月）
資料 4：ボラフェス2017 参加者アンケート集計結果
資料 5：ボラフェス2017 参加団体アンケート集計結果
資料 6：災害ボランティアセンタースタッフ養成講習会 実施報告
資料 7：災害ボランティアセンタースタッフ養成講習会 アンケート集計結果
資料 8：平成29年度西東京ボランティア・市民活動センター予定表（11～12月）
資料 9：平成29年度第3回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録
（未定稿）
資料10：傾聴ボランティア養成講習会 事業実施企画書
資料11：西東京ボランティア・市民活動センター強化プランに基づく3ヶ年アクションプラン
資料別冊：平成29年度第2回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録
（確定稿）
資料別冊：西東京市地域防災計画（平成28年修正） 抜粋
資料別冊：西東京市災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル
資料別紙：ぼらんていあ倶楽部第99号

(1). 業務報告（平成29年9月・10月）について（資料1～3）

- ・まず、区市町村ボランティア・市民活動センター運営委員およびセンター長等合同会議に出席された委員から感想をいただきたい。
- ・初めて参加したが、シンポジウムがあったり今の現状などを話し合った。また、自身の体験からうまくいっているケースなどの話しもあった。とても和気あいあいとして良い会であった。
- ・東京ボランティア・市民活動センターがこれだけの活動をしているというのを初めて知り、驚いた。色々な方と知り合うことがとても大切であることがわかった。職員も外に出ることが大事であるということもわかった。とても良い体験をさせていただいた。
- ・職員よりも市民のみなさんのほうが多く、またボランティアセンターだけでなく、市民活動センターに関わってる方も多く参加されていた。
- ・ボランティア登録数が順調に伸びている要因は何だろうか。
→最近あった例として、囲碁・将棋の特技ボランティアの登録があった。広報紙の最終面を見て、家族から進められ活動する方もいる。高齢者施設で囲碁・将棋のボランティア募集は増

- えてきているが、ボランティアと利用者との力の差がどうしてもあるので、その点が難しい。
- 誘い合ってくれている、声を掛け合ってくれているという点は大事な部分だろう。
- イベントなどの開催場所での声掛けを行っている成果でもあると思われる。
- ・紹介してもらおう立場として、ボランティアを必要とする先の事業のことをボラセンがよく知っていてくれているのも大きいだろう。
- ・街頭募金のボランティアは今までに何人ぐらいの募集があり、紹介ができたのか。
- これまでも募集があってもなかなか紹介が難しいことが多かった。ガールスカウトや少年野球の子どもたちが参加されているようだ。

(2). ボラフェス2017の実施報告について（資料4・5）

- ・アクションプランとも関係すると思われるが、ボラフェスは今後も単独で行っていくのか。
- 流動的な部分ではあるが、NPO市民フェスタとの一緒に行うことが一度流れている。担当が変われば実施方法が変わる可能性もある。また社会福祉協議会事務局の移転の話もあり、総合福祉センターでのボラフェスが開催で難しくなる可能性がある。
- ・事務局も実行委員も悩みながらだとは思いますが、残念ながら至っていない状況もある。様々な事情を勘案しながら一緒に考えていくことが大切だろう。
- ・開催時期が転々としたことで参加団体が減ってしまったことも事実だろう。6月に固定し、場所を見つけて展開し、定着を図っていくことが生き残る道であろう。
- ・一緒に活動する方を探すために若い方に声掛けをするのだが、関係者が多く難しかった。
- ・日曜日というのが、職員にとっても来場者にとっても良いのかどうか疑問であった。高齢者の施設が併設されているので、開所されている曜日に行っても良いのではないか。
- 施設事業が優先されるため、部屋が使用できない部分が出てしまう事情がある。
- ・事業を紹介するチャンスなので、実施月を固定して定例化して行う必要があると思われる。
- ・様々な環境の問題があると思われるが、アクションプラン（仮称）を策定する際に、いくつかの柱建てをする中で、そのコアになる部分としてボラフェスを行おうということであれば、計画に位置付けて実行委員のみなさんにスタートしてもらっても良いだろう。
- ・実行委員が6名ということだが、参加団体から1名ずつ参加すれば良いのではないだろうか。
- 実行委員は、前回参加した団体や把握しているグループ・団体に声掛けし、立候補してもらう形となっている。背景には、実行委員選出を必須とするとさらに参加団体が少なくなってしまうということが懸念されるためである。
- ・外部的に決められることもあると思うが、運営委員会に実施事業として報告されている以上、目標を立てる際に位置付けるかどうかを今後議論していきたい。

(3). 災害ボランティアセンタースタッフ養成講習会の実施報告について（資料6・7）

- ・もう少し経験のある方が参加するかと思っていたが、思ったよりも初めての方が多かった。
- ・被災地に行くことだけでなく募金や節電も含めて災害ボランティアであることを伝えたところ、自分にもできるかもしれないと肩の荷を下ろして気楽に感じてもらったのではないかと思う。
- ・ほとんどの方がレスキューバードにも結び付いたので良かったと思った。
- ・レスキューバードに参加できなかった残り1名も、事情があつてすぐに参加できないといった状況だったので、全員の方が理解をし、自分のこととして受け止めてくれたと思う。

- ・初級編に向く方々の参加が多かったので、先に初級編を実施し、関心の高い人をスタッフ養成講習会に呼び込んでいけたら良い。
 - ・スタッフの養成講習会であったので、可能なら社協職員も一緒に参加できると良いと思った。
 - ・理解のある方を社協内にも少しずつ増やしていったほしい。
 - ・施設では災害ボランティアへの関わりはあったらどうか。
- 過去に新潟の震災の際に1週間ずつくらいでチームを組んで職員が派遣されたことがある。
- 東日本大震災でも被災者の受け入れの依頼はあった。施設でできることは限られているが、できる範囲で対応してきている。

(4). 業務予定(平成29年10月・11月)について(資料8)

＊特に意見無し

2. 審 議 事 項

(1). 平成29年度第3回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録(未定稿)案について(資料9)

＊確定稿とすることについて承認される。

3. 協 議 事 項

(1). 傾聴ボランティア養成講習会について(資料10)

- ・活動していないところもあるので、今のうちにまとめておかないと次が育たない、自分たちもいつまで活動できるかわからないという状況があり、この講習会の開講をお願いした。
 - ・本来であれば、他の地区のように、傾聴ボランティアグループで主催できることが望ましいだろうが、まだその力がないため、社協をお願いをしている。ぜひ多くの方に参加してほしい。
 - ・既存のグループが活動を押し付けるのではなく、参加者20名については、既存のグループに入っても良いし、新しいグループを作るという形でも良いので選択できるようにしたい。
 - ・関心のある方には声をかけているところだが、みなさんにもぜひ声掛けをお願いしたい。
 - ・広報をどのように打ち出していく予定だろうか。
- 市掲示板に12月21日から掲示予定である。またホームページへの掲載、登録ボランティアや把握しているボランティアグループ等へ郵送による案内などを行う予定である。
- 登録ボランティアから今までにも問い合わせがあった状況だが、受講料が発生することや、西東京市内で傾聴ボランティア活動をしてもらうことが条件になっていたりするので、このほかの広報については思案しているところである。
- ・条件はオープンになっているのか。
- オープンになっている。
- 傾聴講座は常に関講されているものではなく、問い合わせも多い。本当に学びたいと思っている人は他県まで行き、何万円も出して学んでくる。5,000円が高いか安いかは学びたい人の気持ちだと思われる。比較的傾聴講座は人気があるので楽観はしている。
- 11月にぼらんていあ倶楽部で紹介してから、何件か問い合わせが入っている状況である。

- ・講師との相談の中では、参加者の最大数は21名まで大丈夫と言われているが、万が一に備え、20名を定員としている。
- ・行政の掲示板についても通常10日間の掲示となっているが、空き状況なども加味していただき30日間の掲示が可能になった。また参加費を取るものも通常は掲示することが難しいようだが、交渉の中で先方の理解と協力が得られ掲示できることとなった。
- ・ボランティアセンターの機能の整理と確認をするうえで、人材発掘と育成をやっていこうと位置づけるときに大事な事業になってくる。70人のメンバーが10数人になってしまったという点から考えても、人材が継続する取り組みが必要なんだということを示してもらえたと思う。

(2)．アクションプラン（仮称）の策定について（資料11・ぼらんていあ倶楽部第20号）

- ・みんなが実施したくなるような名称を付けたいので、ぜひご意見をいただきたい。
- ・前回に話しが出ていたボラセンのシンボルマークである気球のイラストについては、作成した際の記事が、平成16年7月1日号のぼらんていあ倶楽部第20号に掲載されている。気球のイラストのネーミングについても一時検討されたこともあったようだが、立ち消えとなっている。
- ・単に変わった名前を付けるといったよりも、こういうプランとわかるネーミングにした方がよいという話であったと思う。
- ・名前を付けるのは本当に難しい。ネーミングについては先送りにしたい。
- ・中身から生み出されるパッションや思いがあると思うので、中身の議論を先にすると形になるのではないかな。
- ・ボラセンとしてアクションプラン（仮称）を立てていくにあたって、ボラセンがどのような役割を果たすかという機能について確認・共有したい。
- ・1つはコーディネート機能、ボランティアが必要という人とボランティアをしたい人をつなげるコーディネート機能があげられる。2つ目は、ボランティア活動を通した福祉教育の取り組みがあげられる。これは小中学生がイメージされるだろうが福祉教育は年齢を問わない取り組みである。地域の課題に気付いてもらうことも含まれるだろう。3つ目はプラットホームの機能である。個人ボランティアの育成であるとか、ボランティア組織作りの役割をボラセンが果たしてきた。グループ作りやボランティアに参加したい人たちがボラセンに集まって来る。そしてグループになったりボランティア活動の担い手となった人たちがボラセンから旅立っていくプラットホームの役割が求められているのではないかなという意見があり、議論されてきた。
- ・現任期の委員になり、4つ目として追加されたのが、人材の発掘・育成である。地域にはまだまだ力を発揮できていない人材がおり、その人たちが力を発揮できるきっかけや自分を高める機会を作る機能がボラセンにはあるだろう。5つ目は災害対応をあげている。災害ボラセンの立ち上げから災害ボランティアの養成だけでなく、発災時の対応も含めてになるだろう。
- ・この5つの柱で機能を説明し、このような機能を果たしていくためにどのような事業をやっていくか、きちんと位置付けていきたい。複数に関わってくる事業もあると思うが、事業とボラセンの持っている機能をつなぎで理解し、そのためにどのような工夫をするか、どのような事業にしていけるかを検討できと思うので、まずこの5つの機能を柱としてみなさんと確認をしていきたい。前半3つの機能は前任期の運営委員会で確認されたもので、後半の2つは今任期の運営委員会で追加されたものである。
- ・機能と事業のつながりがわかりやすく計画に示されている、あるいは市民にアピールされてい

る姿という、例えばボラフェスは「人材の発掘・育成」や「福祉教育の取り組み」に関わる事業として位置づけられ、だからボラフェスはこういう面で強化してやっていくというのをみんなで共有できることをイメージする形で良いか。

- ・そうすると、ボラセンの動きが見えてくると思う。
- ・ボラフェスをきっかけに新しい人が来てくれるようにするには、どうしたら良いかと考えることにつながっていくことが、このプランを考える意味合いになってくるという理解で良いか。
- ・そのような形でつなげて理解していただけると良い。複数関わってくると思う。
- ・「福祉教育の推進」と「人材の発掘」の違いがよくわからない。
- ・福祉教育が目指しているものは、地域の人たちが持っている価値や考え方、共生ということの意味をみなさんが理解するためにどう働きかけるか、おおもとは誰もが共に暮らせる社会を作るためにみなさんがそのような価値観を持てるよう働きかける、それが高まってくると自分のことだけではなく、ボランティア活動に参加しながら地域を支える役割になっていく、誰かを排除するのではなく一緒に暮らすためにはどうしたらよいのかを考えていく、そのようなマインドを育てていくことを福祉教育と言っている。
- ・発掘というのは募集の方法を言っていて、福祉教育というのは心を育てるという理解で良いか。
- ・良いと思われる。人材発掘というのは「機会＝募集するチャンス」を作っていくということでもある。もしかしたら発掘でなく、育成という理解でもよいかもしれない。
- ・発掘というと加工的な意味があるように感じる。
- ・育成に区切った方が分かりやすいだろうか。
- ・発掘は入っていた方がよりわかりやすいと思われる。
- ・アクションプラン（仮称）として別の言葉で出すことに意味があるかどうか議論が必要だ。
- ・頭の中に福祉教育があって、それが発掘につながって、出てくれば育成するというつながりで考えているから一緒に読み取れてしまう。でも話していることはよ良くわかる。
- ・あとは福祉教育というのはもう少し大きな取り組みかもしれない。ボランティアの人材発掘のためだけではないという所があるかもしれない。
- ・学校教育で言うと、福祉教育は道徳のような位置づけなのだろう。
- ・道徳よりも総合的な学習の時間に近いかもしれない。
- ・福祉教育が総論で、人材発掘・育成が各論と言えるだろう。
- ・大きさやレベルが違うかもしれない、福祉教育と人材発掘・育成を同列で考えてよいかという話も出てくる
- ・具体的な取り組みをしていこうとなった場合に、レベルが違うかもしれないが、柱に入れておく事業を位置付けやすいだろう。
- ・世の中の動きと呼応してあなたにも関わることがあるよと啓発することが福祉教育で、即物的に育てるのが人材発掘・育成でターゲットにしている部分ではないだろうか。
- ・体験プログラムは何かをしっかりと学ぶというよりも、そのような人がいるということを知る福祉教育の要素が強い。傾聴ボランティアの講習会は、スキルをより磨いてもらうという意味で、人材育成の要素が強い。どの事業も両方に関係してくるだろうが、柱としては別々にしている方が良いだろう。
- ・理念を理解してもらうような総論的な講座を実施するのと、具体的なスキルを身に着ける各論的な講座を実施するのとは違ってくるだろう。

- ・今日合意していただけるのなら、この5つの柱で今後検討していきたい。
- ・「プラットホーム」で皆さんが理解できるかどうか気になる。
- ・「プラットホーム」なのか「プラットフォーム」なのかも確認が必要だ。
- ・駅のプラットホームをイメージして考えて話しをしてきたがあっているのだろうか。
→「プラットフォーム」だと違ってくるようだ。
- ・日本語で表した場合はどうなるのか。
- ・「みんなが集まってそして旅だって行く場」、「人が集う場」、「仲間を作ったり、旅立っていく場」と表されるだろうか。
- ・気球のイメージとつながってくる。
- ・英語だと「プラットフォーム」が正しいだろう。
- ・簡単に言うと「基盤づくり」となるだろう。パソコンの基盤をイメージしてもらえると良い。
「ボランティア活動の基盤づくり」となると大きくなりすぎるだろうか。
- ・「みんながつどい、旅立つ基盤」と表されるだろうか。
- ・全社協「市区町村社協強化方針」によると「多者協働の場をプラットホーム」と記されている。
- ・そうすると「多者協働の基盤づくり」となるだろうか。
- ・「人が力を合わせるための基盤づくり」とも言える。
- ・前任期の運営委員会ではその意味だけではなくて、「旅立つ場」でもあると話されていた。
- ・「プラットホーム」の表現についてはまだ決めずにおきたい。プラットホームでは伝わりづらいところがあるということを共有したい。
- ・「福祉教育」という言葉もわかりづらいかもしれない。
- ・「福祉の心を育てる取り組み」という大和言葉にするとわかりやすくなるのではないか。
単語で並べたくなるが、それだとかえってわかりづらくなる。
- ・優しい言葉で書かれているとわかりやすい。他のボラセンには無い表現かもしれない。
- ・本日話し合った柱立てを紙に落とし込んで各委員に送付したい。
- ・事業の方向性や名前などをイメージできるだろう。
- ・今回の任期で結論を出すために今後も議論を重ねていきたい。

4. そ の 他

(1). 次回運営委員会開催日程について

- 開催日時：平成30年1月9日（火）18時00分～19時30分
- 開催場所：田無総合福祉センター4階 第3会議室
- 懇親会：運営委員会終了後、懇親会を設定する。

●以上をもって平成29年度第4回運営委員会の審議、協議を終了し、閉会した。